

氏名	水 口 栄 太
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1381 号
学位授与の日付	平成7年3月31日
学位授与の要件	医学研究科 内科系脳代謝医学(脳神経科学, 精神科学)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	前頭-中心部導出視覚誘発電位に関する研究
論文審査委員	教授 庄盛 敏廉 教授 黒田 重利 教授 小川 紀雄

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

前頭-中心部導出視覚誘発電位の発達的变化を検討し、潜時および振幅の各月、年齢別標準値を求める目的で、生後0カ月から37歳までの健常人137名を対象として研究し、以下の結果を得た。

1. 早期成分 N60、および P75 の潜時は1歳頃まで緩やかに短縮し、以後明らかな変化を示さなかった。

後期成分の N130 潜時は生後8ヶ月頃急激に短縮し、以後10歳まで緩やかな短縮を示した。またP190 潜時は生後6ヶ月頃急激に短縮し、以後15歳まで緩やかな短縮を示した。

2. 振幅はいずれの成分においても生後8ヶ月まで低振幅の傾向を認めた。
3. 覚醒時に比し non-REM 睡眠の第1及び第2段階、および REM 睡眠期において、N130 および P190 潜時の延長と振幅の低下を認め、睡眠第3及び第4段階で波型は消失した。

前頭-中心部導出視覚誘発電位の後期成分は著明な発達的变化を示しており、脳の発達の客観的評価法としても応用しうるものと考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、正常脳の発達を臨床神経生理学的に研究したものであるが、従来あまり調べられていなかった前頭-中心部導出視覚誘発電位の諸成分の年齢別標準値について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。